

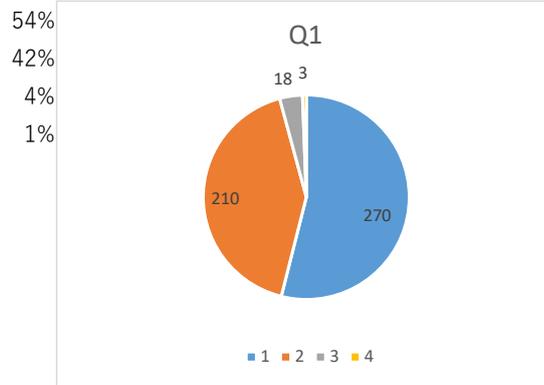
2024年度 経営学部卒業時アンケート 択一回答のみ
 調査対象：562名（2024年度9月卒業生25名、2024年度3月卒業生537名）
 調査実施期間：2024年9月1日～9月30日、2025年3月1日～3月31日
 回答者数：501名（2024年度9月15名、2024年度3月486名）
 回答率：89.1

以下の事項について、入学後の総合的な満足度をお答えください。

Q1

●学部の専門分野[講義科目]に関わる教育

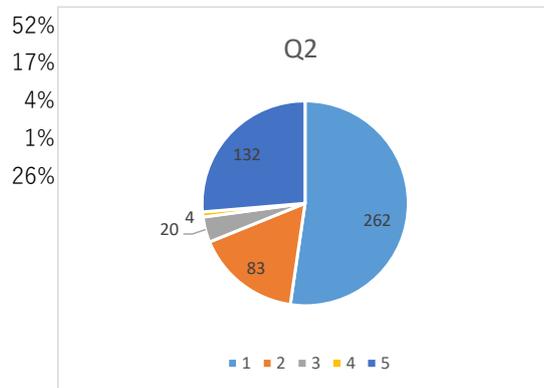
1. 満足	270
2. どちらかといえば満足	210
3. どちらかといえば不満	18
4. 不満	3
計	501



Q2

●ゼミ

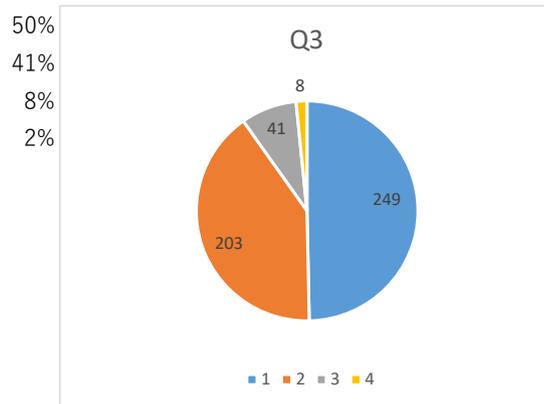
1. 満足	262
2. どちらかといえば満足	83
3. どちらかといえば不満	20
4. 不満	4
5. 未所属	132
計	501



Q3

●就職活動支援

1. 満足	249
2. どちらかといえば満足	203
3. どちらかといえば不満	41
4. 不満	8
計	501

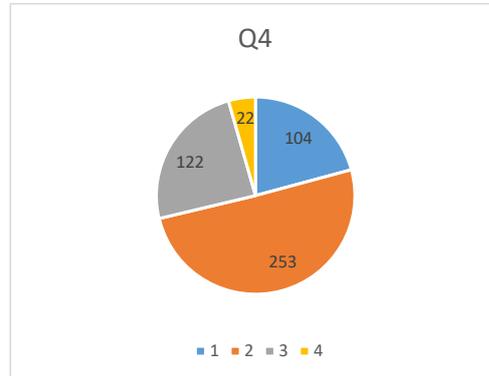


Q4

次あげる能力について、大学入学時と比べてどの程度身についたと思いますか？

●教養と外国語について

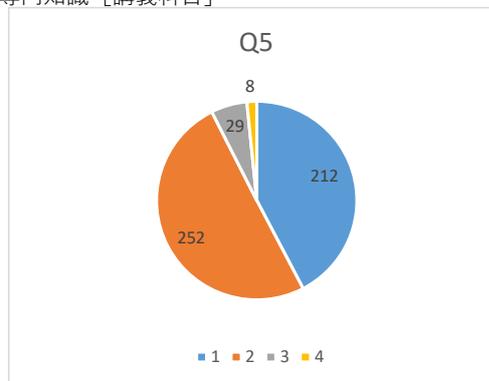
1. かなり身についた	104	21%
2. ある程度身についた	253	50%
3. あまり身につかなかった	122	24%
4. 全く身につかなかった	22	4%
計	501	



Q5

●経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識 [講義科目]

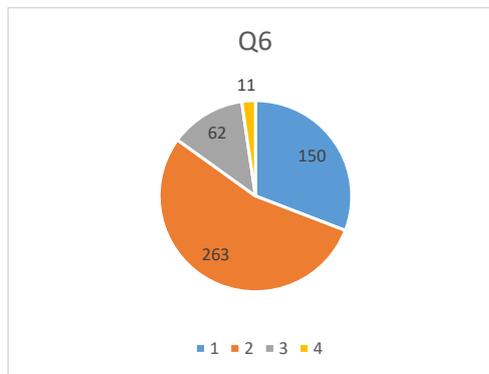
1. かなり身についた	212	42%
2. ある程度身についた	252	50%
3. あまり身につかなかった	29	6%
4. 全く身につかなかった	8	2%
計	501	



Q6

●現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力 [講義科目]

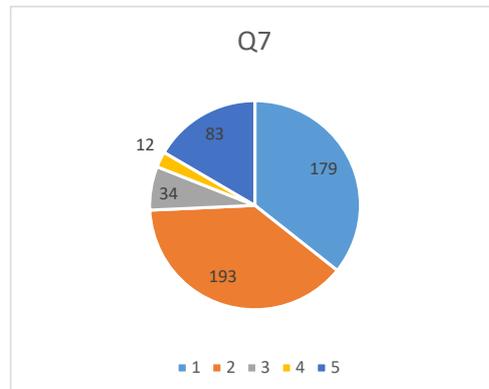
1. かなり身についた	150	31%
2. ある程度身についた	263	54%
3. あまり身につかなかった	62	13%
4. 全く身につかなかった。	11	2%
計	486	



Q7

●現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力 [ゼミ]

1. かなり身についた	179	36%
2. ある程度身についた	193	39%
3. あまり身につかなかった	34	7%
4. 全く身につかなかった。	12	2%
5. 未所属	83	17%
計	501	



【2024年度 経営学部卒業生アンケート結果からの分析】

2024年度の経営学部卒業生アンケート結果について、その概要と概括的な分析を試みたい。

1. 調査概要

まず、調査概要は以下の通りである。

調査対象：562名（2024年度9月卒業生25名、2024年度3月卒業生537名）

調査実施期間：2024年9月1日～9月30日、2025年3月1日～3月31日

回答者数：501名（2024年度9月15名、2024年度3月486名）

回答率：89.1%

2. 分析結果

（1）入学後の総合的な満足度

まず、「入学後の総合的な満足度」として、「学部の専門分野[講義科目]に関わる教育（Q1）」、「ゼミ（Q2）」、「就職活動支援（Q3）」の各質問項目についての調査結果を見てみたい。

（2）学部の専門分野[講義科目]に関わる教育（Q1）

「満足」が54%（2023年度46%：以下同様）、「どちらかといえば満足」が42%（46%）、「どちらかといえば不満」が4%（7%）、「不満」が1%（1%）と、全てが23年度とほぼ同じ結果であった。96%（92%）が「満足」「どちらかといえば満足」という肯定的評価であり、23年度同様に当該項目での満足度は高いといえる。

（3）ゼミ（Q2）

「満足」が52%（43%）、「どちらかといえば満足」が17%（26%）、「どちらかといえば不満」が4%（6%）、「不満」が1%（2%）、「未所属」が26%（23%）であった。「未所属」以外を選んだ74%（77%）の学生に限ると、内訳のうち「満足」が71%（56%）、「どちらかといえば満足」が22%（34%）である。ゼミ所属学生は2023年度も24年度も総じて満足しているが、24年度は「どちらかといえば満足」ではなく「満足」を選んだ者が大幅に増えたといえる。

「未所属」を選んだ学生は4年次だけゼミ未所属なのか、2年次から卒業までゼミ未所属なのかが不明であるが、24年度は26%であり、23年度から3ポイント増加した。25年度はゼミ活性化策の1つとして「経済・経営ゼミナビ」を開設したが、他のゼミ活性化策についても継続して検討・実施することが必要であろう。

（4）就職活動支援（Q3）

「満足」が50%（44%）、「どちらかといえば満足」が41%（44%）、「どちらかといえば不満」が8%（10%）、「不満」が2%（2%）という結果であり、90%（88%）が肯定的評価であった。また、「どちらかといえば不満」「不満」という否定的評価が10%（2023年度は12%、22年度

14%、21年度15%)と、近年連続で漸減している。25年度中は本学がビズリーチ・キャンパスに採用されたことを含め、就職活動支援の周知をさらに徹底させ、利用率の向上に引き続き取り組むべきだといえる。

(5) 大学入学時と比較した知識・能力修得状況

次に、「教養と外国語 (Q4)」、「経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識 (Q5)」、「現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力[講義科目] (Q6)」、「同[ゼミ] (Q7)」において、大学入学時と比べてどの程度身についたと思うかについての調査結果を見てみたい。なお、この3項目は、経営学部ディプロマ・ポリシー (DP) に即した質問である。

(6) 教養と外国語 (Q4)

「かなり身についた」が21% (14%)、「ある程度身についた」が50% (53%)、「あまり身につかなかった」が24% (27%)、「全く身につかなかった」が4% (6%)と、2023年度に比べてやや改善した。とはいえ、「あまり身につかなかった」「全く身につかなかった」という否定的評価が約3割を占めるのは例年同様であり、原因究明と対策が必要であると考えられる。

(7) 経営学・経営情報学・会計学・流通・マーケティングに関する専門知識[講義科目] (Q5)

「かなり身についた」が42% (33%)、「ある程度身についた」が50% (55%)、「あまり身につかなかった」が6% (11%)、「全く身につかなかった」が2% (2%)であった。「かなり身についた」「ある程度身についた」と肯定的に評価した者は2023年度と同様に9割程度であるが、そのうち「かなり身についた」が10ポイントほど増えており、十分な修得実感があったといえる。

(8) 現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力[講義科目] (Q6)

(9) 現代社会における諸問題あるいは様々な学術研究分野における諸問題を発見・分析・解決する実践的な知識・能力[ゼミ] (Q7)

これまで、DP3に対応する質問はゼミに関する1問であったが、2025年3月実施分より、講義科目 (Q6) とゼミ (Q7) の2問に分けた。結果は、「かなり身についた」が講義31%・ゼミ36% (29%)、「ある程度身についた」が講義54%・ゼミ39% (47%)、「あまり身につかなかった」が講義13%・ゼミ7% (16%)、「全く身につかなかった」が講義・ゼミとも2% (8%)であった。また、Q7に関しては、「未所属」以外を選んだ83%の学生に限ると、内訳のうち「かなり身についた」が43%、「ある程度身についた」が46%であった。以上より、24年度は23年度よりも、問題発見・解決能力の修得実感が増しており、また、「かなり身についた」という実感は講義科目よりゼミの方が10ポイントほど高いことがわかる。アクティブラーニングを取り入れやすいゼミならではの効果が出ていると思われる。

3. 総括

2024 年度卒業生の満足度及び修得実感に関する卒業時の意識においては、ほぼ例年通りの高い評価が得られた。中でも問題発見・解決能力の修得実感については、25 年 3 月実施分より講義科目とゼミを分けたところ、ゼミの方が高い修得実感が得られやすいことが判明した。今後の主な課題としては、例年と同じく教養と外国語の修得実感の向上に加え、ゼミ所属の利点の周知、各ゼミ活動のさらなる充実が挙げられる。